

第三回里山ワークキャンプ in 庄原  
報告書

2010年9月20日

里山ワークキャンプ in 庄原実行委員会

## 1) はじめに

ワークキャンプとは、地域年代を問わず、あらゆる層の参加者が各地域で1～3週間共同生活をしながら、地域の住民と環境保護・福祉・農村開発等、色々な種類のボランティアを行うプロジェクトのことです。

川北町においては、2週間かけて行う国際ワークキャンプを2000年から2004年まで4回開催しました。また、土日にかけて行う週末ワークキャンプを、20回以上開催しています。活動場所は主に矢の原、黒田原周辺で、活動内容は間伐、枝打ちといった山林整備、その材を利用したベンチ（バスセンター、日赤等に寄贈）や木のおもちゃ（川北保育所に寄贈）造り、畦草刈り、炭窯を作った竹炭焼き、豆腐・こんにやく作りといった農山村の生活を体験するものになっています。また、海外の参加者がいた事から、川北小学校へ訪問しての国際交流、地域住民とのパーティーなども行われていました。

## 2) 事業の概要

|             |  |
|-------------|--|
| 2-1) 事業名    | 里山ワークキャンプ in 庄原  |
| 2-2) 開催期間   | 2010年9月5日～9月11(7日間)  |
| 2-3) 開催地    | 広島県庄原市川北町  |
| 2-4) 事業目的   | ① 地域の課題(環境保全、農林業、過疎化、高齢化など)を、現場での体験を通して考えてもらう<br>② 地域の里山保全・整備につなげる<br>③ 参加者と地元の方が交流する事によって、地域の活性化を図る |
| 2-5) 参加者    | *ワークキャンプ参加者5名<br>*他のボランティア:多数(一日平均3～5人)<br>詳しくは、「3)参加者と協力者」を参照                                       |
| 2-6) ワーク内容  | ① 草刈り<br>② 古民家再生<br>③ 大豆畑草抜き<br>④ 里山料理体験<br>⑤ 竹林整備<br>⑥ 小学校運動会準備                                     |
| 2-7) 他の活動   | ディスカッション(古民家活用について)、座学(地域での味噌作りについて)   |
| 2-8) 生活方法   | 八谷家休憩所兼宿泊所にて宿泊<br>矢の原老人集会所にて食事   |
| 2-9) 主催     | 里山ワークキャンプ実行委員会と北自治振興区の共催   |
| 2-10) 後援・協力 | 後援:庄原市、県立広島大学生命環境学部、中国新聞<br>協力:地域の方々   |
| 2-11) 財政    | *参加者の開催地への移動費 :各自の自己負担<br>*開催中の宿泊・食費 :参加者の参加費、寄付、パーティーの参加費、積立金で賄う                                    |

## 3) 参加者・協力者

### 3-1) ワークキャンプ参加者 (5名)

| 名前    | 所在地  | 性 | 年  | 職業     | 備考    |
|-------|------|---|----|--------|-------|
| 中西 康浩 | 広島県  | 男 | 22 | 材木業    |       |
| 高橋 契匠 | 東京都  | 男 | 18 | 大学生 1年 |       |
| 宮寺 宏一 | 神奈川県 | 男 | 19 | 大学生 2年 |       |
| 延命 直紀 | 神奈川  | 男 | 18 | 大学生 1年 | 7日から  |
| 角野 優子 | 広島県  | 女 | 28 | フリーター  | 8、9日  |
| 長尾 真弓 | 神奈川県 | 女 | 21 | 大学生 2年 | キャンセル |
| 吉田 朗子 | 神奈川県 | 女 | 19 | 大学生 2年 | キャンセル |
| 鳥居 有葉 | 東京都  | 女 | 22 | 大学生 4年 | キャンセル |

### 3-2) 里山ワークキャンプ実行委員

委員長 : 八谷恭介

委員 : 清水宣輝、植田朋子、大掛敬三、寺西玉実、佐竹英明、後藤ひろこ、後藤信彦、清谷勇蔵、森本千尋、高橋秀則、新山みわ、本庄博美

### 3-2) 地元の方々

住田鉄也、大迫弘、梅野大輔、山脇信彦、桑原光雄、四目忠 淳、和田秀紀、大掛芳寛、久山義幸、丸林進、松田充義、多田泰孝、竹地 康、滝口末彦、藤原文夫、和田まこと

### 3-3) 応援して下さったの方々

早田保義、藤田泉、北村浩司、久保和也、Farmer's Hands

## 4) 開催前／後の大まかな流れ

### 4-1) 開催に到った経緯

明治大学の早田教授が、首都圏の学生に対して、里山の保全活動を行うことで、里山を通して見えてくる地域の課題（環境保全、農林業、過疎化、高齢化など）を考え、地域の自然や環境についての知識を深めることを目的とした農山村体験を提供したいという思いを基に、NICE の行っている国際ワークキャンプをヒントにして、ワーキングステイを開催します。その後、この動きを継続・拡大させ、さらに地域と深く関わり盛り上げていくために、名称を里山ワークキャンプ in 庄原に戻すとともに、共催に川北町のある北自治振興区を迎え、地域に溶け込んだワークキャンプを目指して、今回、2010年度「第3回里山ワークキャンプ in 庄原」(ワーキングステイから継続してカウントしている為、国際ワークキャンプは含めない。)が開催されました。

#### 4-2) 本事業の開催までと今後の大まかな流れ

| いつ  | 何を |                                  |
|-----|----|----------------------------------|
| 10年 | 6月 | 本事業の開催と事業の骨格（期間・人数・ワーク内容など）を決定   |
|     | 7月 | 参加者の募集・案内開始                      |
|     |    | 実行委員会始動                          |
|     | 8月 | 回覧で地域に告知                         |
|     |    | 事業の肉付け（ワークの場所・作業日を決定、宿泊施設を確保など）  |
|     |    | しおりを作成                           |
|     | 9月 | 本事業の本番を運営（9月14日～月24日）。事務局員も開催地訪問 |
|     |    | 事業報告書の作成                         |

### 5) 開催中の日程

#### 5-1) 開催中の日程

| 日付     | 午前          | 午後           | 夜          |
|--------|-------------|--------------|------------|
| 9/5 日  |             | 集合、オリエンテーション | 歓迎パーティー    |
| 9/6 月  | 古民家再生ワーク    | 古民家再生ワーク、木工  | ディスカッション準備 |
| 9/7 火  | 豆腐、蒟蒻づくり    | お茶づくり、料理教室   | ディスカッション   |
| 9/8 水  | 大豆畑草抜き      | 鶏の解体         | 座学         |
| 9/9 木  | 小学校訪問       | 小学校訪問、温泉津観光  | フリー        |
| 9/10 金 | 小学校運動会準備ワーク | お別れパーティー準備   | お別れパーティー   |
| 9/11 土 | 解散          |              |            |

### 6) 事業の狙いと成果

今回のワークの狙いは大きく3つありました。

- 1 地域の課題(環境保全、農林業、過疎化、高齢化等)を、現場での体験を通して考えてもらう
- 2 地域の里山保全・整備につなげる
- 3 参加者と地元の方が交流する事によって、地域の活性化を図る

これらの成果としては、

- 1 女性部との交流や、地元の方々と頻繁に接したので、問題を感じ取ってもらうことができた
- 2 古民家再生、朝の草刈り、竹林整備で地域の環境保全に貢献できた
- 3 作業の最中や休憩中に地元の方が声をかけに来てくれたので、交流が頻繁に行われ、開催期間中だけでも地域がにぎやかになったという実感があつた

## 7) 提言と今後の構想

今回のワークキャンプにおける大きな成果の一つは、自治振興区と共催という形をとる事が出来、それによってワークキャンプというものの可能性がすごく広がったということです。

これまでのワークキャンプは、個と個のつながりから生み出されるものによって作り上げられている面が強かったと思いますが、今回は自治振興区とのつながりを活用する事によって、今まで繋がる事のなかったような人たちとワークをする事が出来、その結果として、活動領域、ワークの幅がすごく広がったと感じます。特に女性部の方々とのつながりは、これからの可能性を開くカギになると考えています。

ワークの内容としては、全体の目的、趣旨は打ち出せていましたが、ワーク一つ一つについて明確にしていなかった事から、ワークの意味づけが少々あいまいのままで作業を進めてしまっていました。次回は、その都度ワークの意義を説明していく必要があると思います。

モチベーションは全員高く保たれていて、作業をする上では非常に楽に進めることができ、予定した以上の作業量をこなす事が出来ました。作業量自体も適度にきつい程度で、全員ばてることも無く最後までやりきれていたのも、ちょうど良かったと思います。

しかし、夜更かしが続いて、朝の草刈りに出るのが少し遅れ気味になり、そこから全体としておし気味になる事が多かったのも、スケジュール管理とタイムテーブルの調整を再検討する必要があります。

今回のワークキャンプでは、お別れパーティーの参加者の少なさに見られたように、それ自体が以前のようにはまだ地域になじんでおらず、地域の人にとってはよそ者のイベントといった風になってしまっていたかと思います。実際、ワークに絡ませていただいた地域も黒田原が多く、矢の原で畔草刈りを出来た事以外、その他の地域で展開する事が出来ませんでした。

この問題には早くからの地域への告知や、参加者を増やしてもっといろんな地域で活動できる余裕を作っていくこと、そして何より回数を重ねて地域にワークキャンプというものを浸透させていくことが重要になってくると思います。

そのためにも、これから継続していけるような体制作りを進めていく必要があります。委員の皆様にはこれからもお世話になる事が多いと思いますが、なにとぞ宜しくお願いします。

## 8) おわりに

今回のワークキャンプは、これまでのものとはまた違った体制と趣旨で進めてきましたが、その中で参加者が色々感じてくれたという事は、これからも続けていく価値のあるものにする事ができたということだと思います。それをこれからも継続させ発展させていく為に、何が必要か、どうすればよいかを見極めながら、地域の方々と一緒にこれからのワークキャンプを作り上げていくことで、これからの川北を少し面白くできれば、そんなことを企みながら、次回に向けて努力していきます。宜しくお願いします。